

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京農業大学
設置者名	学校法人東京農業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
農学部	農学科	夜・通信	0	0	84	84	13	
	動物科学科	夜・通信			81	81	13	
	生物資源開発学科	夜・通信			83	83	13	
	デザイン農学科	夜・通信			87	87	13	
応用生物科学部	農芸化学科	夜・通信		0	52	52	13	
	醸造科学科	夜・通信			47	47	13	
	食品安全健康学科	夜・通信			70	70	13	
	栄養科学科	夜・通信			75	75	13	
生命科学部	バイオサイエンス学科	夜・通信		0	63	63	13	
	分子生命化学科	夜・通信			49	49	13	
	分子微生物学科	夜・通信			68	68	13	
地域環境科学部	森林総合科学科	夜・通信		0	61	61	13	
	生産環境工学科	夜・通信			76	76	13	
	造園科学科	夜・通信			64	64	13	
	地域創成科学科	夜・通信			66	66	13	

国際食料情報学部	国際農業開発学科	夜 ・ 通信	0	52	52	13		
	食料環境経済学科	夜 ・ 通信		62	62	13		
	アグリビジネス学科	夜 ・ 通信		56	56	13		
	国際食農科学科	夜 ・ 通信		64	64	13		
生物産業学部	北方圏農学科	夜 ・ 通信		0	29	29	13	
	海洋水産学科	夜 ・ 通信			26	26	13	
	食香粧化学科	夜 ・ 通信			13	13	13	
	自然資源経営学科	夜 ・ 通信			13	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

該当する授業科目一覧表を大学ホームページにて公表しているとともに、シラバスにも記載している。

一覧表：https://www.nodai.ac.jp/open_information/

シラバス：http://syllabus.nodai.ac.jp/portalv3_p/slbsskwr.do

【シラバス検索方法】

検索キーワードに「実務経験のある教員等による授業科目」と入力し、検索する。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京農業大学
設置者名	学校法人東京農業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人東京農業大学ホームページ https://www.nodai.ac.jp/hojin/soshiki/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東京農業大学校友会副会長 元公益社団法人職員	令和5年7月16日～令和9年度に開催される最初の定時評議員会の終結時まで	・卒業生理事として校友会との調整 ・外部団体経験者としての意見聴取
非常勤	元株式会社役員	令和5年7月16日～令和9年度に開催される最初の定時評議員会の終結時まで	・卒業生理事として校友会との調整 ・外部団体経験者としての意見聴取
非常勤	国立研究開発法人職員	令和5年7月16日～令和9年度に開催される最初の定時評議員会の終結時まで	学識経験者理事として専門的意見の聴取
非常勤	株式会社役員	令和5年7月16日～令和9年度に開催される最初の定時評議員会の終結時まで	学識経験者理事として専門的意見の聴取

		時まで	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京農業大学
設置者名	学校法人東京農業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成にあたって、「授業概要」「到達目標」「取り扱う領域」「アクティブラーニングを使用した授業の手法」「授業の進行等について」「教科書及び資料」「学んだことが活用できる領域」「評価の方法」の項目への記載を必須事項とし、授業担当者がシラバスシステムに入力作業を行う。 ・シラバス作成の際には、教務課から「シラバス作成の留意事項」を授業担当者に周知し、詳細なシラバスへの記載を依頼している。シラバスの作成後、学科ごとに「シラバス記載内容の第三者によるチェック」を行い、シラバス記載内容の妥当性・適格性を徹底している。 ・授業担当者へのシラバス作成依頼時期は前年度の12月、3月末までに作成・確認のうえ、学生への公開時期は当該年度の4月にしている。 	
授業計画書の公表方法	1. 学生ポータルサイト【学生専用ログイン】 2. ホームページ http://syllabus.nodai.ac.jp/portalv3_p/top.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の11～13回目に「学生による授業評価アンケート」を実施し、1週間あたりの自己学修時間等の問いにより、学修意欲を把握している。 ・評価について、「秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59以下）、未評価（評価に値しない）」という明確な成績評価基準のガイドラインを学生及び授業担当者に明示している。また、「秀」の評価は履修者の5%以内に収めることも明示しており、適正な評価を担保している。 ・授業ごとの成績評価方法は、シラバスで示すとともに、学生への成績開示後に学生が評価について質問できる機会を設けており、成績評価に関して学生からの質問・相談に応えるために、授業担当者に厳格かつ明確な評価基準を求めている。 	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学業評価の状況を的確に把握するため、各評価に対し「秀（4.0）、優（3.0）、良（2.0）、可（1.0）、不可（0.0）、未評価（0.0）」という基準でGPAを算出している。 ・学科・学年ごとの通算GPAの平均値及び分布状況グラフを学生ポータルサイト上で公開し、学生本人が自身の学修状況を客観的に把握するよう促している。 ・学生の学修状況を把握し、学生の学びへの意欲を喚起するために、GPAが一定基準以下の学生に対して学科の担当教員が個別に学修指導を行っている。指導状況は学部長を経由して、教学担当副学長に報告している。なお、指導内容の詳細は「個別指導等実施記録」として保管している。 	
客観的な指標の算出方法の公表方法	1. 学生生活ハンドブック（算出方法）入学時に配付 2. 履修のてびき（算出方法）毎年度初めに配付 3. ホームページ（算出方法） https://www.nodai.ac.jp/open_information/ 4. 学生ポータルサイト（通算GPA平均値及び分布状況グラフ）【学生専用ログイン】
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を大学・学部・学科ごとに策定しており、ホームページ上で公表している。
- ・ディプロマ・ポリシーの適切な実施のために、「シラバス作成の留意事項」において、「到達目標」項目にディプロマ・ポリシーと関連付けて、学生がどのような知識・能力を修得できるかを具体的に記載するよう義務付けている。
- ・3月教授会において、卒業判定結果を承認している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

https://www.nodai.ac.jp/open_information/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京農業大学
設置者名	学校法人東京農業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nodai.ac.jp/hojin/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	https://www.nodai.ac.jp/hojin/zaimu/
財産目録	https://www.nodai.ac.jp/hojin/zaimu/
事業報告書	https://www.nodai.ac.jp/hojin/zaimu/
監事による監査報告(書)	https://www.nodai.ac.jp/hojin/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:学校法人東京農業大学第4期中期計画N2026 対象年度:2023年~2026年)	
公表方法: https://www.nodai.ac.jp/hojin/plan/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nodai.ac.jp/about/disclosure/selfassessment/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nodai.ac.jp/accreditation/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 農学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.nodai.ac.jp/open_information/) (概要) 本学部は、環境、生物の多様な機能、生産農学に対する基礎的な理解を基に、生命科学や最新の技術を取り入れ、時代に即した農学の発展に資することを目的としている。特に、生物多様性の保全と利用、農畜産物の生産、植物・動物や食の持つ様々な機能の活用などの学際的な領域までを対象として教育・研究を行い、豊かな心と実学的知力を養い、国内外において地域リーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.nodai.ac.jp/open_information/) (概要) 農学部は、それぞれの立場から生物多様性の保全と活用、医・薬・理学との境界領域を含む農畜産業、生物の持つ様々な機能の活用に関連する産業の発展等に貢献できる能力を有した人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。 (1) 農学に関する基礎的・基盤的な知識と技術を習得した上で、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけている。 (2) 各学科の講義科目、実験、実習、演習、さらには卒業論文を通して、学科において学ぶ広範囲な知識と判断力及び問題解決能力を身につけ、総合的な判断力とバランス感覚を有している。 (3) 農学に関わる環境領域、生命科学領域、農畜産物の生産領域および生物活用などの領域の専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。 (4) 各学科における学修や諸活動の経験に基づき、社会における諸問題への高い見識と展望を持ち、自ら考究して問題を解決する能力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.nodai.ac.jp/open_information/) (概要) 農学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、動植物の基礎的な知識を基に、実践的な農学の専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のことに配慮しながら教育課程を編成します。 (1) 学生が総合的で幅広い知識を持つように、研究室配属前の学生に対し、学部共通科目を開講し、自然科学、社会科学の両分野にわたる教育を行う。 (2) 研究室所属後も「学科基礎科目」、「学科応用科目」および「総

<p>合化科目」に配当するコース選択科目を配置することで、広く農学に関する素養を身につけるための教育を受けられるようにする。</p> <p>(3) 強い好奇心と探究心、諸問題への高い見識と展望を持って、自ら解決する能力と総合的な判断力を持った学生を育成するため、講義科目と実験・実習、演習科目及び卒業論文を効果的に配当する。</p> <p>(4) 各学科で定める専門的知識と能力が身につくよう、各学科のカリキュラム・ポリシーに従い専門科目を配当する。</p> <p>(5) 学習成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、就農・キャリア科目及び学外実習科目を開講する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>農学部では、生産科学、生命科学、環境科学および生活科学としての農学の立場から、生命現象の解明、国内外における農作物や畜産物の安全かつ安定した生産と供給および技術革新、さらには生物多様性の保全と活用、動植物や食の持つ多様な機能の活用による人の生活の質の向上など、広範な領域で活躍できる人材を養成しています。そのため、本学部では次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 高等学校までに得られる国語、英語、数学をはじめ、農学を学ぶ上で必要な生物や化学などの基礎学力と知識を身につけている。</p> <p>(2) 人類社会の直面する食料問題、資源問題や環境問題などの解決、生命現象の解明に取り組む意思と意欲を持っている。</p> <p>(3) 自然や生き物の持つ価値を理解し、それらを人類の福祉と持続的な社会の構築に役立てる意欲を持っている。</p>

<p>学部等名 応用生物科学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物、化学及び生物化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>応用生物科学部は、未来に向けて拡大し続ける農学領域において、生物生産・生物資源利用から食料・健康・環境・エネルギーまでを理解する力と、その解析を行うための能力を高めることによって、人と環境が調和する私たちの生活のあり方や未来について、その改善策を提案し、実践できる人材を輩出するため、以下の要件を満たし、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>

対し、学位を授与します。

- (1) 生物学と化学を中心とした自然科学の基礎的・基盤的知識の修得と同時に、各学科の目指す専門的・先進的な知識や技術を身につけている。
- (2) 卒業論文研究の遂行および論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、論理的思考力、問題解決力、文章力、企画提案力およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。
- (3) 研究室における諸活動および国内外での体験的・実践的諸活動などに基づき、他者との協調性、自らの積極性と適切な表現力、コミュニケーション力、高い倫理性などを有し、国内外で活躍する能力を身につけている。
- (4) 「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)

(概要)

応用生物科学部のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 生物生産・生物資源利用から食料・健康・環境・エネルギーまでを理解する上で必要な基礎的・基盤的知識の修得と、応用生物科学にかかわる専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当し、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。
- (2) 「総合教育科目」には、全学共通科目としてデータサイエンスの重要性を鑑みた「導入科目」、「課題別科目」および「就職準備科目」などの区分を設け、大学での学修方法等を修得する科目や、専門教育の動機付けとなる授業科目、学修内容を将来の進路に繋げるための科目を配当する。
- (3) 「外国語科目」には、国際的視野を形成することで専門領域を理解し、国内外で活躍するため、実践的な語学科目を配当する。
- (4) 「専門教育科目」には、学科教養科目として人文科学分野科目、社会科学分野科目、自然科学分野科目を配当し、さらに、学部共通として「進化論」、「細胞機能学」、「マーケティング学」などの専門共通科目を配当する。また、各学科には、「無機化学」、「分析化学」、「(基礎)生化学」、「微生物学」、およびこれら科目の学生実験などの専門基礎科目を配当する。各学科独自には「専門応用科目」の区分を設け、応用生物科学分野の基礎と応用に対応した科目をはじめ、科学の進歩に対応する先端科目や社会の要請に応えうる実践的科目を配当し、実学主義に基づく問題解決学習を含めた多くの実験・実習・演習科目も配当する。

<p>(5) 「学科専門科目」の中に「総合化科目」として、4年間の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>応用生物科学部は、「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などをテーマに、“生きる”を多元的に支える応用生物科学の力を駆使して、人と環境が調和する私たちの生活のあり方や未来に貢献する意欲を持ち、国際的な視野のもと、実社会で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 高等学校において、化学、生物学および外国語を履修し、本学部で学ぶ上での必要な基礎学力、知識および語学力を有している。</p> <p>(2) 「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などに関心を持ち、関連専門分野の実社会で活躍し、情報発信する意欲を有している。</p> <p>(3) 実験・実習・研究等を通じた学びに強い関心があり、主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ姿勢を有している。</p> <p>(4) 様々な事象や未解決の課題に対し、多面的かつ客観的に観察し、理論的に考察して自分の考えを適切に他者に伝えることが出来る。</p>

<p>学部等名 生命科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、多様な生物をミクロからマクロまで統合的に捉えることで、現代社会が直面する問題解決の取組みにつなげる教育研究を行う。また、その過程を通して、汎用的な基礎力と専門的な応用力を磨き、知識・技術・経験をもとに、自ら問題発見と解決方法を見いだすことに挑戦し、倫理観をもって社会に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>生命科学部は、分子生物学、化学、バイオインフォマティクスを主たる教育研究の対象とし、農学の基盤となる生命現象の基本原則を分子から微生物・動植物個体までダイナミックなスケールで理解し、研究を通じて論理的思考力を磨き、研究成果の社会実装を通じて持続的な世界の発展に寄与する人材を輩出するため、各学科の教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位数を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p>

<ul style="list-style-type: none"> (1) 生命科学に関する基礎的知識の修得と同時に、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や実験技術、そして研究成果を社会へ分かりやすく発信するためのコミュニケーション能力を身につけている。 (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。 (3) 研究室における実験を中心とする諸活動および学会発表のような体験的・実践的活動などに基づき、広い視野、異なる分野への理解や関心、他者への柔軟性、自らの考えを国際的に発信できる英語能力を有し、グローバルに活躍しうる能力を身につけている。 (4) 先端生命科学に関わる汎用的な基礎力と専門的な応用力を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>生命科学部は、実験・実習や研究室活動を通じて、汎用的な基礎力と専門的な応用力を育む教育を施し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に各 学科の教育課程を編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的知識の修得と生命科学に関わる実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、ナンバリングやカリキュラムツリーを用いて学修の順序等を示すなど、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。 (2) 「学科教養科目」においては自然科学分野4科目に加え、人文科学分野3科目と社会科学分野3科目も配当し、広い視野の育成を行う。 (3) 生命科学部各学科の「専門教育科目」においては専門共通科目として3学科の専門科目(15科目)を共通で配当し、生命科学における異なる専門分野への関心や理解の育成と、将来の進路を考える上での助力とする。 (4) 研究室における少人数単位での実験・実習・演習科目を配当し、より実践性を高め、問題能力の解決につながる能力の養成と、「総合化科目」における4年間の学修の集大成となる「卒業論文」科目にもつなげる。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>生命科学部は、生命の基本原理の解明、そして人類が直面する「生命」にまつわる諸問題の解決に果敢に挑戦し、研究成果の社会実装を通じて持続的な世界の発展に貢献する人材の養成を目指しています。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 従来の農学に医学・薬学・理学・工学を取り込んだ複合的な生命

<p>科学研究に関心を持ち、意欲を持って学修に取り組むことができる。</p> <p>(2) 自然科学の共通言語である英語に関心を持ち、読む、書く、聞く、話す能力を高める意欲を有している。</p> <p>(3) 社会問題に関心を持ち、社会実装を通じてその問題解決に貢献しようとする意欲を有している。</p> <p>(4) 生命の理解に関わる基礎的な学力と論理的思考を有し、国内外の研究者と協働して研究を行うための豊かな人間力とコミュニケーション能力を持ち、それらをさらに高めようとする意欲を有している。</p>
--

学部等名 地域環境科学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p> <p>(概要)</p> <p>本学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術確立することを目指すものである。さらに、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p> <p>(概要)</p> <p>地域環境科学部は、生物に対する深い理解と造詣をもって、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献できる人材を輩出するため、所定の単位を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) グローバルな視野を持ちながらローカルな地域環境に対する知識をもとに、地域づくりにかかわる諸問題を総合的に捉え理解する能力を有している。</p> <p>(2) 環境共生型・循環型の地域づくりに関する諸問題に興味・関心を持ち、その問題を解決する意欲と能力を修得している。</p> <p>(3) 地域環境科学にかかわる多様な事象を総合的に捉え、地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための知識や技術・表現力を修得している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p> <p>(概要)</p> <p>地域環境科学部は、本学の教育理念「実学主義」に基づく地域体験型学習を通して、地域問題、環境問題にかかわる実践的な知識・技術・解決力を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) グローバルな地球環境問題とローカルな地域環境の関係、人間活</p>

<p>動と自然環境の関わり、地域づくりの理念と目標に関する理解を深める。</p> <p>(2) 実際の地域体験を通じて、地域の自然環境や社会的環境への理解を促し、地域環境や地域問題解決への関心・意欲を高める。</p> <p>(3) 持続可能な地域づくりにかかわる技術者として、人類社会における技術の位置づけと社会的責務および倫理観を修得する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>地域環境科学部は、グローバルな地球環境から、ミクロな地域環境に至るまでの幅広い知識・理解力を有し、様々な環境問題の解決や持続可能な地域づくりに貢献できる人材の養成を目指しています。そのため、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理に興味を持っている。</p> <p>(2) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理の実現に向けての幅広い知識や関心、柔軟な思考力を身につけている。</p> <p>(3) 環境問題や環境共生型・循環型の地域づくり、地域環境と生物資源の保全・利用・管理の実現に向けてチャレンジする意欲を有している。</p> <p>(4) コミュニケーション力や表現力などの素養を有している。</p>

<p>学部等名 国際食料情報学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築、食料の生産・加工・流通・支援サービスを担う農業・食品系ビジネスの展開及び日本が誇る食農文化の継承・発信や新たな食農文化の創造等の分野で活躍できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際食料情報学部は、世界および日本における食と農に関する問題の解決と地域社会や世界の発展等に貢献する人材を輩出するため、本学部の教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p>(1) 自然科学・社会科学の両分野にわたる基礎的・基盤的知識の修得と同時に、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけている。</p>

- (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用
力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現お
よびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。
- (3) 研究室における諸活動および国内外での体験的・実践的諸活動な
どに基づき、広い視野、異なる文化への理解や関心、他者への柔
軟性、自らの意思を適切に表現できる表現力あるいは語学力を有
し、地域あるいは海外で、現場と連携・協働し活動しうる能力
を身につけている。
- (4) 「農業」、「食料」、「環境」分野における「国際協力」、「技
術」、「ビジネス」、「マーケティング」、「文化」、「教
育」、「政策」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を実社
会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)

(概要)

国際食料情報学部は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、食料・農
業分野における総合的な教育を根幹として、実践的な専門知識・技術を修
得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の
下に教育課程を編成します。

- (1) 広い視野から物事をとらえることができるように、人文科学・社
会科学・自然科学の学科教養科目を学部共通で配当する。また、
農学および関連分野の応用科目として4学科で重なり合うものを
専門共通科目として配当する。
- (2) 課題探求力、情報収集力、批判的・論理的思考力、プレゼンテー
ション力などの能力を身につけるため、実験・実習・演習科目を
効果的に配当する。とくに、本学部ではフィールドでの調査や実
社会で体験できる実習科目を重視する。また、4年間の学修の集
大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。
- (3) 各学科の専門性を深めて探求力を養うために、各学科のカリキュ
ラム・ポリシーに基づいて専門基礎科目と専門応用科目を配当す
る。
- (4) 異文化理解および国際的視野を形成するための実践的な語学科目
として、全学共通の基礎英語科目と実用英語科目を配当する。世
界の多様な人々とコミュニケーションをはかる基礎を養うため、
初修外国語科目として幅広い言語の科目を配当する。また、世界
の多様な食と農に関する状況を理解できるような科目、日本の状
況を世界に位置づけて理解できるような科目、海外で実習・研修
できる科目を配当する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)

<p>(概要)</p> <p>国際食料情報学部は、人類共通の課題として提起された食と農の諸問題を地球規模的視野で捉え、これらの問題解決のために取り組む人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。</p> <p>(1) 食料・農業分野を総合的に学ぶにあたり、基礎的学力と必要な知識を有している。</p> <p>(2) 「農業」、「食料」、「環境」分野における「国際協力」、「技術」、「ビジネス」、「マーケティング」、「文化」、「教育」、「政策」などに関心を持ち、地域社会や国際社会で活躍する意欲を有している。</p> <p>(3) 実験・実習・演習等に通じた学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。</p> <p>(4) ある事象に対して多面的かつ論理的に考察して、自分の考えをまとめ、適切に他者に伝えることができる。</p>

学部等名 生物産業学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、人類生存にとって極めて重要な生物産業（生産、加工、流通・ビジネス）と自然環境との共生をテーマに、これらを取り巻く自然科学的・社会科学的現象を教育研究の基盤とした文理融合の体系的な学びを通して、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、持続的循環型社会に貢献しうる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>生物産業学部は、生物産業と自然環境が調和した持続的循環型社会を構築するために、文理融合の学びを通して生物資源の生産、加工、経営と人の営みに関する深い知識と高度な専門性を持った人材を養成することを目的としています。このために、定められた授業科目の単位を修得し、かつ次に挙げる学力と能力を有した学生に学士の学位を授与します。</p> <p>(1) 生物産業に係る自然・生命・資源・食料・健康・経営・地域創生に関する専門的な知識と理論を体系的に理解している。</p> <p>(2) 生物産業に関する課題を見出し、収集した情報と数量的なデータに基づく解決策を考える論理的思考力を有するとともに、自らの考えを適切に表現できるプレゼンテーション能力や語学力を有している。</p> <p>(3) 学内外の諸活動での体験的・実践的活動を通じて多様な価値観に触れてそれを理解し、他者と協働して行動することができる。</p> <p>(4) 学部で習得した学修の成果を国内外の実社会で応用し、実践できる能力と、生涯にわたり学び続けるための自己管理能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)
<p>(概要)</p> <p>生物産業学部は、生物資源や自然資源を「生産－加工－経営」という生物産業を一貫して学ぶことを「農学」分野における「生物産業学」と捉え、全学部的な教養科目との融合を前提とした各学科が提供する専門科目教育課程の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎的・基盤的知識の修得と生物産業学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」および「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当するとともに、効果的な学修を行うため、各学科で将来目指すコースごとに必要な実践的専門知識と技術を身につけられるよう、履修モデルを設定する。 (2) 「総合教育科目」および「外国語科目」には、「導入科目」、「課題別科目」および「初修外国語科目」等の区分を設け、異文化理解および国際的視野を形成し、かつオホーツクという立地的特性を考慮した特色ある科目を配当するとともに、専門教育科目を修得する上で必要な基礎的科目を配当する。 (3) 「専門教育科目」には、「学科教養科目」および「学科専門科目」等の区分を設け、生物産業学の基礎となる科目をはじめ、オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目や、「生産－加工－経営」というアグリ・フードビジネスを一貫して学ぶ「人と生物産業」および「地域と生物産業」等を配当する。 (4) 「学科専門科目」の「総合化科目」には、実践的専門知識と技術を修得させる多くの 実験・実習・演習科目を必修科目として配当するとともに、課題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を育成するために、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。
入学者の受入れに関する方針
(公表方法: https://www.nodai.ac.jp/open_information/)
<p>(概要)</p> <p>生物産業学部は、現代社会にとって不可欠な生物産業（生産－加工－経営）と自然環境の共生をテーマに、わが国有数の生物資源・自然資源を持つ北海道オホーツク地域という学びのフィールドと“冒険は最良の師である”という格言に基づく人間力の育成を重視した教育課程により、21世紀の持続的循環型社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) フロンティア精神・チャレンジ精神を持ち、将来、地域や組織のリーダーとして社会に貢献したいという志を有している。 (2) 生物産業（生産－加工－経営）およびこれらを統合した6次産業化を、実体験の中で学ぶことに強い関心がある。 (3) 健全な人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有し、協働して課題解決にあたることができる。

(4) 生物産業学を学ぶにあたり、各学科が求める基礎的学力と必要な知識を修得している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
農学部	－	41 人	14 人	0 人	19 人	0 人	74 人
応用生物科学部	－	41 人	18 人	0 人	17 人	4 人	80 人
生命科学部	－	25 人	12 人	0 人	12 人	1 人	50 人
地域環境科学部	－	37 人	16 人	0 人	9 人	0 人	62 人
国際食料情報学部	－	35 人	19 人	0 人	16 人	0 人	70 人
生物産業学部	－	31 人	14 人	0 人	10 人	0 人	55 人
教養部（一般教育）	－	6 人	2 人	0 人	3 人	0 人	11 人
附置研究所	－	4 人	3 人	0 人	0 人	0 人	7 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		485 人					485 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公表方法：本学ホームページ（教員紹介・検索）より閲覧 可能 https://www.nodai.ac.jp/academics/teacher_search/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「東京農業大学の F D 実施に関する方針」を定め、これに基づき全学的な F D 活動を以下の とおり実施している。							
・ F D 研修会の実施（特別講演等） ・ ベストティーチャー賞及びベストレクチャー賞の実施 ・ 外部団体主催の F D イベントへの参加 など							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
農学部	558 人	609 人	109.1%	2,232 人	2,404 人	107.7%	人	人
応用生物科学部	570 人	607 人	106.5%	2,280 人	2,456 人	107.7%	人	人
生命科学部	410 人	441 人	107.6%	1,640 人	1,750 人	106.7%	人	人
地域環境科学部	490 人	539 人	110.0%	1,960 人	2,154 人	109.9%	人	4 人
国際食料情報学部	600 人	661 人	110.2%	2,400 人	2,598 人	108.3%	人	1 人
生物産業学部	363 人	366 人	100.8%	1,452 人	1,470 人	101.2%	人	1 人
合計	2,991 人	3,223 人	107.8%	11,964 人	12,832 人	107.3%	人	6 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
農学部	540 人 (100%)	75 人 (13.9%)	391 人 (72.4%)	74 人 (13.7%)
応用生物科学部	566 人 (100%)	100 人 (17.7%)	441 人 (78.0%)	25 人 (4.3%)
生命科学部	404 人 (100%)	154 人 (38.1%)	220 人 (54.5%)	30 人 (7.4%)
地域環境科学部	464 人 (100%)	42 人 (9.1%)	388 人 (83.6%)	34 人 (73.3%)
国際食料情報学部	589 人 (100%)	27 人 (4.6%)	483 人 (82.0%)	79 人 (13.4%)
生物産業学部	313 人 (100%)	26 人 (8.3%)	256 人 (81.8%)	31 人 (9.9%)
合計	2876 人 (100%)	424 人 (14.7%)	2179 人 (75.8%)	273 人 (9.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
農学部	582 人 (100%)	513 人 (88.1%)	44 人 (7.6%)	40 人 (6.9%)	1 人 (0.2%)
応用生物科学部	598 人 (100%)	552 人 (92.3%)	36 人 (6.0%)	19 人 (3.2%)	0 人 (0%)
生命科学部	425 人 (100%)	384 人 (90.4%)	22 人 (5.2%)	25 人 (5.9%)	1 人 (0.2%)
地域環境科学部	509 人 (100%)	433 人 (85.1%)	51 人 (10.0%)	35 人 (6.9%)	0 人 (%)
国際食料情報学部	621 人 (100%)	550 人 (88.6%)	53 人 (8.5%)	32 人 (5.2%)	0 人 (%)
生物産業学部	367 人 (100%)	299 人 (81.5%)	34 人 (9.3%)	34 人 (9.3%)	4 人 (0.9%)
合計	3,102 人 (100%)	2,731 人 (88.0%)	240 人 (7.7%)	185 人 (6.0%)	6 人 (1.2%)

（備考）その他内訳（カウントは、入学時の所属学科にてカウント）

転学部

農学部⇒生命科学部（1名）、生物産業学部⇒農学部（1名）、
生物産業学部⇒地域環境科学部（1名）、生物産業学部⇒国際食料情報学部（1名）

転学科

生命科学部間（1名）、生物産業学部間（1名）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

- ・年間授業計画を前年度の9月に教学検討委員会で策定し、次年度の授業準備を開始する。
- ・シラバス作成にあたって、「授業概要」「到達目標」「取り扱う領域」「アクティブラーニングを使用した授業の手法」「授業の進行について」「教科書及び資料」「学んだことが活用できる領域」「評価の方法」の項目への記載を必須事項とし、授業担当者がシラバスシステムへの入力作業を行う。
- ・シラバス作成の際には、教務課から「シラバス作成の留意事項」を授業担当者に周知し、詳細なシラバスの記載を依頼している。シラバスの作成後、学科ごとに「シラバスの記載内容の第三者チェック」を行い、シラバス記載内容の妥当性・適格性を徹底している。
- ・授業担当者へのシラバス作成依頼時期は前年度の12月、3月末までに作成・確認のうえ、学生への公開時期は当該年度の4月にしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

【学修の成果に係る評価】

- ・授業の11～13回目に「学生による授業評価アンケート」を実施し、1週間あたりの自己学修時間等の問いにより、学修意欲を把握している。
- ・評価について、「秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）、未評価（評価に値しない）」という明確な成績評

価基準のガイドラインを学生及び授業担当者に明示している。また、「秀」の評価は履修者の5%以内に収めることも明示しており、適正な評価を担保している。

- ・学生への成績開示後に成績相談日を設けており、成績評価に関して学生からの質問、相談に応えるために、授業担当者に厳格かつ明確な評価基準を求めている。

【卒業又は修了の認定に当たっての基準】

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を大学・学部・学科ごとに策定しており、ホームページ上で公表している。
- ・ディプロマ・ポリシーの適切な実施のために、「シラバス作成の留意事項」において、「到達目標」項目にディプロマ・ポリシーと関連付けて、学生がどのような知識・能力を修得できるかを具体的に記載するよう義務付けている。
- ・3月教授会において、卒業判定結果を承認している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
農学部	農学科	124 単位	有	44 単位
	動物科学科	124 単位	有	44 単位
	生物資源開発学科	124 単位	有	44 単位
	デザイン農学科	124 単位	有	44 単位
応用生物科学部	農芸化学科	124 単位	有	44 単位
	醸造科学科	124 単位	有	44 単位
	食品安全健康学科	124 単位	有	44 単位
	栄養科学科	124 単位	有	49 単位
生命科学部	バイオサイエンス学科	124 単位	有	44 単位
	分子生命化学科	124 単位	有	44 単位
	分子微生物学科	124 単位	有	44 単位
地域環境科学部	森林総合科学科	124 単位	有	44 単位
	生産環境工学科	124 単位	有	44 単位
	造園科学科	124 単位	有	44 単位
	地域創成科学科	124 単位	有	44 単位
国際食料情報学部	国際農業開発学科	124 単位	有	44 単位
	食料環境経済学科	124 単位	有	44 単位
	アグリビジネス学科	124 単位	有	44 単位
	国際食農科学科	124 単位	有	44 単位
生物産業学部	北方圏農学科	124 単位	有	49 単位
	海洋水産学科	124 単位	有	49 単位

	食香粧化学科	124 単位	有	49 単位
	自然資源経営学科	124 単位	有	49 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）	公表方法： ・学生生活ハンドブック（入学時に配付） ・学生ポータルサイト【学生専用ログイン】			
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
農学部	農学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 435,600 円 2年 455,600 円 3年 455,600 円 4年 455,600 円	「その他」には、実験実習演習費、整備拡充費、学生厚生費を計上している。
	動物科学科 (2018 年 4 月畜産学科から名称変更)	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 455,600 円 2年 475,600 円 3年 485,600 円 4年 505,600 円	
	生物資源開発学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 455,600 円 2年 475,600 円 3年 485,600 円 4年 505,600 円	
	デザイン農学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 455,600 円 2年 475,600 円 3年 485,600 円 4年 505,600 円	
応用生物科学部	農芸化学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
	醸造科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
	食品安全健康学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
	栄養科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 555,600 円 2年 655,600 円 3年 655,600 円 4年 655,600 円	
生命科学部	バイオサイエンス学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
	分子生命化学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
	分子微生物学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 505,600 円 2年 535,600 円 3年 535,600 円 4年 535,600 円	
地域環境科学部	森林総合科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 405,600 円 2年 415,600 円 3年 425,600 円 4年 435,600 円	
	生産環境工学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 405,600 円 2年 455,600 円 3年 455,600 円 4年 505,600 円	
	造園科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 405,600 円 2年 405,600 円 3年 405,600 円 4年 405,600 円	

	地域創成科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 405,600 円 2年 485,600 円 3年 475,600 円 4年 455,600 円	
国 際 食 料 情 報 学 部	国際農業開発学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 435,600 円 2年 435,600 円 3年 435,600 円 4年 435,600 円	
	食料環境経済学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 325,600 円 2年 325,600 円 3年 325,600 円 4年 325,600 円	
	アグリビジネス学科 (2023 年 4 月国際 バイオビジネス学科 から名称変更)	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 325,600 円 2年 325,600 円 3年 325,600 円 4年 325,600 円	
	国際食農科学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 455,600 円 2年 455,600 円 3年 455,600 円 4年 455,600 円	
生 物 産 業 学 部	北方圏農学科 (2018 年 4 月生物生 産学科から名称変更)	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 450,600 円 2年 450,600 円 3年 450,600 円 4年 450,600 円	
	海洋水産学科 (2018 年 4 月アクアバイオ 学科から名称変更)	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 485,600 円 2年 485,600 円 3年 485,600 円 4年 485,600 円	
	食香粧化学科	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 525,600 円 2年 525,600 円 3年 525,600 円 4年 525,600 円	
	自然資源経営学科 (2018 年 4 月地域産 業経営学科から名 称 変更)	1年 760,000 円 2年 810,000 円 3年 860,000 円 4年 910,000 円	270,000 円	1年 308,600 円 2年 308,600 円 3年 308,600 円 4年 308,600 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活ハンドブック等を通じて、カリキュラムの特長や単位制について説明するとともに、履修モデルを示しながら、履修方法について周知している。授業に関する様々な情報は学生ポータルサイトに開示し、個々の授業の目的及び各回の授業内容等は Web シラバスにより確認することが可能である。また、オフィスアワーを設け、授業に関する質問や相談に応じている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 世田谷キャンパスにキャリアセンター、厚木・北海道オホーツクキャンパスにキャリアセンター事務課を設け、各キャンパス組織的に進路支援を実施している。支援内容としては、フレッシュマンセミナー、インターンシップ、キャリアデザイン、ビジネスマナー、就職支援プログラム、公務員講座、企業セミナー、国際インターンシップ、教員採用試験対策講座 (教務課) が挙げられる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）世田谷キャンパスに健康サポートセンター、厚木・北海道オホーツクキャンパスに保健室を開設し、学校保健安全法に基づく定期健康診断の実施、感染症予防対策の実施等を行うほか、学校医や看護師が身体健康管理について相談に応じている。また、各キャンパスに学生相談室を開設し、修学上の問題はもちろん、対人関係、課外活動、心理的な悩み、経済的な問題、健康面での不安など、カウンセラーがさまざまな悩みの相談に応じるほか、問題の解決を手助けし、充実した学生生活が送れるよう、丁寧なサポートを行っており、学生に関して心配なことがある保護者の方からの相談も受け付けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.nodai.ac.jp/open_information/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103322
学校名（〇〇大学 等）	東京農業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人東京農業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		823人	799人	814人
内 訳	第Ⅰ区分	470人	475人	
	第Ⅱ区分	217人	201人	
	第Ⅲ区分	136人	123人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				816人
（備考） 年間計には、家計急変による支援対象者（年間）になった者も含む。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	23人	人	人
計	33人	人	人
（備考） 年間計には「修業年限で卒業又は修了できないことが確定」及び「修得単位数が標準単位数の5割以下」になった者も含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	—	人	人
G P A等が下位4分の1	98人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	99人	人	人
(備考)			
年間計には「修得単位数が標準単位数の6割以下」になった者も含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。